

平成22年度北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム



2011・国際森林年

1月27日（木）北海道森林管理局大会議室

注：氏名欄の○印は代表発表者

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
1	森林技術	砂坂海岸林における荒廃地復旧事業の軌跡 檜山森林管理署 ○矢沢 俊悟 内田 勝弘 明治初期から行われた過度の伐採に端を発し、厳しい季節風により森林が衰退し砂漠化が進んだ砂坂海岸林の荒廃砂地を復旧するため昭和10年から始まった復旧事業における先人の苦勞と今日までの取組みを発表。	8:45～ 9:00
2	森林技術	天然林での樹種の多様化を図る更新方法の開発 森林技術センター ○真庭 利明 森林総合研究所北海道支所 飯田 滋生 倉本 恵生 針葉樹で2種類、広葉樹で3種類以上の樹種を目標に様々な天然更新補助作業により樹種の多様化を図る更新方法の開発を行い、多様な樹種で構成された混交林へ遷移させることを目的とした課題であり、これまでの調査状況についての中間報告。	9:00～ 9:15
3	森林技術	ガルトネル保護林（ブナ人工林）における更新状況調査 北海道大学造林学研究室 ○斎藤 秀之 渡島森林管理署 中野 英昭 ガルトネル保護林（ブナ人工林）は更新不足が問題となっている。林内に24プロットを設置し、ブナ実生の更新密度と林床の相対照度を調査することにより、更新不良の原因は林床の光不足にあることが明らかになった。	9:15～ 9:30
4	森林技術	カラマツ複層林における下木の間伐について 根釧西部森林管理署 重藤 有史 カラマツ複層林の一部では、樹冠の鬱閉や林床植生の消失による水源かん養機能の低下が懸念される。カラマツ複層林の現況を調査すると共に、今後の下木の間伐方法と課題について検討。	9:30～ 9:45
5	森林技術	天然林択伐試験地報告 北海道森林管理局指導普及課 足立 康成 北海道森林管理局では、天然林の動態を長期に照査するため昭和27年より択伐試験地を設定し、現在も調査を継続している。58年に亘って調査してきた成長経過等を報告すると共に、今後の天然林管理について考察。	9:45～ 10:00

休憩 10:00～10:15

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
6	森林技術	<p>針広混交林への誘導に向けた除伐方法（除伐Ⅱ類の活用） 宗谷森林管理署 ○畠 義博 高木 理絵 石水 尚輝</p> <p>国有林では、長伐期化や針広混交林化など多様な森林づくりを目指すこととしているが、除伐等の実行においては、未だ目的樹種偏重と考えられる施業を続けている。このため、針広混交林等多様な森林へ誘導するため、除伐Ⅱ類を積極的に活用した施業方法を検討。</p>	10:15～ 10:30
7	森林技術	<p>郷土種による緑化の検証 －在来種と外来種の種子配合等による発芽率の検証（中間報告）－ 留萌北部森林管理署 星 雄介</p> <p>林道工事の法面保護工については、これまで外来種子を使用した工法を主体に施行してきた。今回、道内に自生する地域性種苗から育成採取した 在来種子と混播することにより、発芽状況等にどのような差が生じるか比較調査方法を考察。</p>	10:30～ 10:45
8	森林技術	<p>G P S (MobileMapper6)の実用的活用と国有林G I Sとの連携 十勝西部森林管理署東大雪支署 ○片山 青澄 中塚 祥憲</p> <p>北海道森林管理局管内で導入されているGPS (MobileMapper6)について、現地で見やすくするために基本図を利用する等、現場業務での実用的な活用の方向性、国有林GISとの連携方策について検討。</p>	10:45～ 11:00
9	森林技術	<p>支笏湖周辺風倒被害における更新状況と今後の課題 胆振東部森林管理署 ○菅田 健太郎 三弊 宣明</p> <p>支笏湖周辺の大規模な風倒被害が発生してから順次被害跡地の更新を行ってきた。被害発生から6年が経過した現在、天然更新の状況等について調査し、今後の復旧に当たっての取扱いと課題について検討。</p>	11:00～ 11:15
10	森林技術	<p>森林管理署における自動撮影装置による野生動物の調査について 後志森林管理署 ○野崎 龍彦 高久 雄太</p> <p>森林管理署において自動撮影装置を用いた野生動物の調査を行う取り組みの紹介とデータの活用方法、森林施業が野生動物に与える影響の評価を目的とした調査の経過報告。</p>	11:15～ 11:30
11	森林技術	<p>山取り苗と表土ブロックによる土場跡地の緑化 十勝東部森林管理署 ○帆足 直也 三間 武</p> <p>土場跡地の早期緑化に向けて、山取りクロエゾマツと土場跡地隣接箇所から採取した表土ブロックの植栽による緑化を試みたので、その経過について報告。</p>	11:30～ 11:45
12	森林技術	<p>「アカエゾマツ人工林の間伐モデル林」の成長経過について 上川総合振興局北部森林室普及課 石川 博道</p> <p>地域に適合した施業体系や仕立て方の実証を行うため、士別市有林（28年生時）に本数密度が異なる試験区を4区設定した。設定後15年が経過し林分の成長・樹幹解析・丸太強度等の調査を実施したことについて報告。</p>	11:45～ 12:00
<p>昼食休憩 12:00～13:00</p>			

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
13	森林技術	<p>神居古潭地区におけるエゾシカ食害の現況把握と食害防止事業の評価 株式会社 森林環境リアライズ ○山口 信一 上川中部森林管理署 坂後 浩</p> <p>旭川市神居古潭地区においては、4,5年前にエゾシカの食害が顕在化したため、平成18年度から嗜好性の高い樹種に対し樹幹を覆う保護シートを設置してきた。その効果の検証と、現在の同地区における被害状況を把握し、今後の管理経営に役立てることとした。</p>	13:00～ 13:15
14	森林技術	<p>スーパーF1とグイマツ雑種F1との比較について 上川北部森林管理署 ○成澤 潤一 津田 元</p> <p>スーパーF1を平成21年度に風倒被害地へ植栽し、また成長推移等を比較する目的で、同時期にグイマツ雑種F1を植栽した。両樹種を比較した結果と、明らかになった問題点を第一報として報告。</p>	13:15～ 13:30
15	森林技術	<p>森林を活用したまちづくり 下川町地域振興課環境モデル都市推進室長 長岡 哲朗</p> <p>下川町は、国の環境モデル都市の認定を受け、豊かな森林資源を活用し地域産業の振興と温暖化対策を結びつけたまちづくりを展開している。森林バイオマスの活用、カーボンオフセットなど先駆的な取組みについて紹介。</p>	13:30～ 13:45
16	森林技術	<p>当署の低コスト・高効率作業システムの取組みについて 十勝西部森林管理署 ○北 章吾 日野 道俊 有限会社サンエイ緑化 邊見 秀明</p> <p>北海道森林管理局においては、「森林・林業再生プラン」に即し、低コスト・高効率作業システムの取組みを加速化していくこととされた。</p> <p>当署においても、局方針に基づき今年度より同システムを導入し、受注事業者の（有）サンエイ緑化の協力を得て取組んだところであり、今回、その取組みの中で得られた課題等を報告し、今後の同システムの普及・定着に向けての一助にしたい。</p>	13:45～ 14:00
<h2>休憩 14:00～14:15</h2>			
17	国民の森林	<p>多様な調査手法に対応した新型樹種別再掲表等の活用について 空知森林管理署 土屋 修久</p> <p>高精度の地林況調査結果を得るため、様々な調査が必要とされる中、複雑な集計を可能にし、効率的な地林況調査・収穫調査をサポートする樹種別再掲システムの紹介とその活用事例を発表。</p>	14:15～ 14:30
18	国民の森林	<p>森林認証取得の経緯と効果等について 網走西部森林管理署 太田 尚哉</p> <p>森林認証取得までの経過と現状、流域での取組み状況、森林認証の効果等について発表するとともに、森林認証の審査項目にもなっている生物多様性の保全についてのPR等の取組みについて紹介。</p>	14:30～ 14:45

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
19	国民の森林	<p>国民目線に立った国有林の利用とPRについて</p> <p>日高北部森林管理署 ○三上 祥隆 阿部 聡</p> <p>国民目線に立った国有林利用者の利便性向上や情報提供を進めるため昨年度行った取組みに加えて、入林者や地域住民の意向を把握し、更なる方策について検討を進めており、今回、意向把握の分析を中心に取組みの内容を報告。</p>	14:45～ 15:00
20	国民の森林	<p>地域のもりから学ぶ森林づくり</p> <p>ー森林の生物多様性を学ぶー</p> <p>石狩地域森林環境保全ふれあいセンター 松本 誠 定山溪中学校 ○高橋 美咲 ○陰山 紘太</p> <p>札幌市民の水源、定山溪国有林で地域に根ざした取組みとして地域のもりから学ぶ「森林づくり」や森林の調査観察、森林生態系（森林の生物多様性）を学ぶ活動を生徒や市民と協働で実施した。この活動の企画から実施までの経過を報告。</p>	15:00～ 15:15
21	国民の森林	<p>我が署における人材育成活動</p> <p>網走西部森林管理署西紋別支署 ○国沢 修 貞廣 久男</p> <p>収穫調査等の現場作業経験が無いあるいは少ない職員が増えておりそれらの職員に対し支署内のベテラン職員（基幹作業職員含む）が勉強会という形態で技術の継承を行うなどの取組み報告。</p>	15:15～ 15:30
22	国民の森林	<p>パイロットフォレストを活用した森林・林業の普及啓発の取組み</p> <p>釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター ○林 直樹 朝倉 基博</p> <p>子供からお年寄りまでを対象にパイロットフォレストの素晴らしさを知ってもらう取組みを通して、森林・林業に関する関心を高め、国有林への理解の増進に努めてきた取組みの紹介。</p>	15:30～ 15:45
23	国民の森林	<p>国民の共有財産である国有林の利用について</p> <p>占冠・村づくり観光協会 ○竹林 利広 上川南部森林管理署 佐藤 和秋</p> <p>国民の共有財産である国有林（赤岩青巖峽）の利用管理について、占冠村観光協会が主体となった新たな取組みを今年度から始めた。その背景経緯、問題点及び将来展望について発表。</p>	15:45～ 16:00
24	国民の森林	<p>地域に期待される森林環境教育を目指して</p> <p>常呂川森林環境保全ふれあいセンター ○栄 平男 小國 敬篤</p> <p>地域からは、ふれあいセンターや森林管理署に対して、樹木や植物の同定から学校教育の一環としての森林環境教育など様々な要請がある。これまでふれあいセンターが取組んでいる森林環境教育を検証し、その期待に応える方向性を探る。</p>	16:00～ 16:15
<p>休憩 16:15～16:30</p>			

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
25	高校	<p>保存食・救荒食の再現、トチノミの食用利用について 岩見沢農業高等学校 ○岩田 和馬 ○三本漆 岳人 橋本 勇太</p> <p>昔、栄養価が高く保存食・救荒食として食されていたトチノミ。しかし食料が豊かな現在、食される事は少なくなっている。そこで昔の人の技術を参考に、校内で採れるトチノミを用いて、トチノミの食用利用を行った。</p>	16:30～ 16:45
26	高校	<p>「しずない二十間道路桜並木」を活用した環境教育プロジェクトの実践 北海道静内農業高等学校 ○館山 一樹 反保 大地 五十嵐 直樹 日高南部森林管理署 山本 謙也</p> <p>地域に根ざした環境教育を目的に、本校に隣接する「しずない二十間道路桜並木」を教材とした活動を実施した。この発表では日高南部森林管理署と連携して取組んだ樹木調査をはじめ、環境美化や募金活動等の実践例を紹介。</p>	16:45～ 17:00
27	高校	<p>トンボを通して見る石狩川の自然再生 Part II ～トンボ相の多様性から水辺の環境を診断～ 北海道旭丘高等学校生物部 ○内田 葉子 ○岩田 夏実</p> <p>トンボは種によって生息環境が異なるため、トンボ相の多様性を調べることで水辺の環境が分かります。昨年度と今年度のトンボの種類構成を比較し、その変化から植生の違いや季節消長などの考察。</p>	17:00～ 17:15
27日（1日目） 終了			

平成22年度北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム

1月28日（金）北海道森林管理局大会議室

注：氏名欄の○印は代表発表者

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
28	森林ふれあい	<p>月形スギ保護林の保護対策について（第3報） 空知森林管理署 ○井田 悠一郎 菊地 浩司 明治23年、月形町所在の樺戸集治監に収容されていた囚人たちの手によって植えられたスギを現在、国有林が保護林として管理している。 一方、平成22年が月形町開町130年という記念の年に向けた行事として、月形町等と協力してスギ保護林から採取した枝を挿し木にして育苗し、この度、歴史あるスギ林の後継樹を町有地へ植樹するイベントを実施したので、今までの経過と今後の展望について発表。</p>	9:15～ 9:30
29	森林ふれあい	<p>海と山の森林づくり ～循環する社会を目指した取組み～ 寿都町役場産業振興課 土開 直樹 寿都町の海の恵みの基となる森林を育てるとともに未来を担う子供達への環境教育を実践する指導者等の育成を目指し、自然環境と人材が寿都町の豊かな未来へつながることを目標とした、寿都町独自の循環する社会の構築を目指した取組みの紹介。</p>	9:30～ 9:45
30	森林ふれあい	<p>知床からの情報発信 ～イベント集客区域の広域化への検討～ 知床森林センター ○島田 智美 中嶋 佑輔 世界遺産登録5周年を迎え全国的に知床への関心が高まる中、センターが実施するイベント活動の対象や広報等のPRをより広域化することが必要と考え、全国へ向けた情報発信と集客区域の広域化を検討。</p>	9:45～ 10:00
<h2>休憩 10:00～10:15</h2>			
31	森林ふれあい	<p>黒松内岳ブナ林再生プロジェクトの2010年度活動報告と 林内のブナ苗畑作りについて 黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会 ○斎藤 均 新川 幸夫 茂尾 実 黒松内岳に元々あったブナ林を再生する目的で、町民有志により2007年に発足した「黒松内岳ブナ林再生プロジェクト」の2010年度に取組んだ活動内容とブナの苗を霜害を受けない林の中で作る試みについて報告。</p>	10:15～ 10:30
32	森林ふれあい	<p>大沼地域自然再生モデル事業の取組みについて（経過報告） 駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター 梅田 三幸 ドイツトウヒとトドマツで構成する森林を地域ニーズを踏まえた生物・水質・景観など多様性のある森林へと誘導する事を目的とした大沼自然再生モデル事業のこれまでの取組みについて報告するとともに隣接するカラマツ造林地の今後の取扱いについて考察。</p>	10:30～ 10:45

14:00～

◎特別講演

『森林・林業再生プランと
北海道国有林』

北海道大学大学院

農学研究院 教授 柿澤 宏昭 氏

【ポスター展示】 1階ウッディホール

◎下川町

◎寿都町

◎有限会社サンエイ緑化

◎北海道札幌旭丘高等学校

◎北海道岩見沢農業高等学校

◎石狩地域森林環境保全ふれあいセンター

◎知床森林センター